

トークショー Talkshow

Moderator: Takashi Uesugi
司会: 上杉隆 ジャーナリスト



Pierpaolo Mittica
ピエルパオロ・ミッティカ



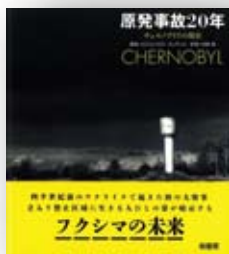
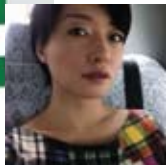
Pio d'Emilia
ピオ・デミア



Satoshi Kamata
鎌田慧 作家



Asami Nakashima
中島麻美 編集者・記者



チェルノブイリの原発事故から四半世紀。ベラルーシ、ウクライナの立入禁止区域内(原発周囲30km)のありのままの光景をカメラにおさめた静謐なるドキュメント。

「たびたび訪れ脳裏に焼きつけた光景にはすでに慣れっこになっていると思っていたが、身の毛のよだつ恐怖に人間が麻痺することはないのだ。」(序文より)

爆心地周辺のゴーストタウン、その近辺にいまも暮らす人々の日常、悪性腫瘍、白血病、奇形の身体……。放射能汚染拡散の過程を克明に解説したテキストとともに、日本版のために著者が新たに撮り下ろした福島の写真を収録し、核の恐怖にさらされた現在と未来の姿を同時に告発する。



[著者] ピエルパオロ・ミッティカ
1971年生まれ。イタリア在住。1997年にサラエボを撮影して以来、コソボやインド、バングラデシュなど、社会に対して強烈に問いかける写真を撮り続けている。本写真集(原タイトル『Chernobyl: The Hidden Legacy』)は、ヨーロッパをはじめとする各国で高い評価を得た。

3.11の震災直後、即座に東北入りした著者。外国人の視点・利点を活かした独自の取材で、日本のメディアでは語られない「日本の歪み」や「被災の真実」「被災者の本音」を明らかにしていく。

福島第一原発事故に関しては、チェルノブイリの大惨事をきっかけに、国民投票を通じてすべての原子力発電所を停止させたイタリアの一市民の立場から、「日本人は、現在保有している原子力発電が、アメリカの意向で推進され、少数のエリートによって導入されたものだという歴史的事実を認識し、今後は国民的な議論を深めたい」として是非を決めるべきだ」と主張を展開。

安全神話に乗せられ、思考停止に陥ってきた日本人の感情に訴えかける、渾身のドキュメント!!

[著者] ピオ・デミア
1954年生まれ。イタリアのテレビ局SKY TG24の極東特派員。「現場をまわり自分の目で見たことだけを伝える」をモットーに、危険地帯も常に「現場」から報道。一方で各分野から著名人を招いて会見や講演会をオーガナイズするなど、独自の存在感を発揮している。自由報道協会設立準備会メンバー。



イタリア文化会館

Istituto Italiano di Cultura

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30
2-1-30, Kudan Minami, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0074

参加希望の方は、お名前、電話番号、同伴者人数を記入の上メール(eventi.iictokyo@esteri.it)またはFax(03-3262-0853)にてお申し込みください。

